

水通信



2021.6.29 第180号

「水通信」は、水資源機構（主に中部管内）における取組に関する情報を、中部管内の関係者（県、市町村、土地改良区その他関係機関）の皆様方に、直接配信させていただいております。

※目次の事業所名等をクリックすると、その事業所等の記事に移動します。

各事業所名をクリックすると目次に戻ります

目 次

☆ [【巻頭言】](#)

- 中部支社 副支社長 木下昌樹

☆ [【中部管内水源情報】](#)

☆ [インタビュー『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』](#)

☆ 《新着情報》

[中部支社](#)

- 洪水対応演習を実施しました

[豊川用水](#)

- 東郷西小学校に出前授業に行ってきました

- リスク管理勉強会を行いました
- 大野導水併設水路工事のTBM掘進開始から1年がたちました

木曾川水系連絡導水路

- 「長良川を美しくしよう運動」に参加しました

愛知用水

- 愛知用水三好池耐震対策技術検討委員会を開催しました

木曾川用水

- 交通安全優良事業所表彰を受けました

岩屋ダム

- 「アユ迷入防止対策」を行いました

阿木川ダム

- 防災操作連絡会を開催しました
- 特定外来植物のオオキンケイギクの駆除を行いました
- カワウの個体数抑制の取組を行っています
- 施設見学会を実施しました

徳山ダム

- 植樹イベントに備え下草刈り作業を実施しました
- 常用洪水吐きゲート設備の機側操作訓練を実施しました

長良川河口堰

- 天然遡上アユの親魚育成試験に協力

味噌川ダム

- 洪水対応演習を行いました
- 桜の植樹に参加しました
- ダム貯蔵酒の蔵入れがありました

三重用水

- 三重用水土地改良区理事長が視察されました
- 赤川のホタル観察をしています
- 菰野調整池直下流赤川の清掃活動を実施
- 打上調整池（水嶺湖）で防災へりによる消火訓練が行われました

☆ 【イベントカレンダー】

- 令和3年7月～8月

☆ 【編集後記】

- 担当課 中部支社総務部 経理管財課

巻頭言

【中部支社 副支社長 木下昌樹】

本年4月1日付けで中部支社副支社長を拝命しました木下と申します。中部支社管内の勤務は平成12年度～13年度の長良川河口堰管理所以来2回目となります。今回においても関係の皆様方のご教示をいただき、現場の状況、実情をしっかりと理解して職務を遂行してまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

さて、今年の東海地方は平年より3週間早い5月16日に梅雨入りし大雨の時期を迎えました。この時期の雨は農作物にとって貴重な水資源となります。しかしその一方で、同一箇所豪雨が長時間続く線状降水帯を形成する場合がありますので、洪水の発生に対し適切に備えておかなければなりません。

中部支社管内では、4月19日、20日において支社、各事務所一斉に洪水対応演習を実施しました。この演習で、大規模出水時における情報伝達を迅速的確に実施できる状態であることを確認し、また事前放流や異常洪水時防災操作（洪水調節容量を100%使い切った場合の操作）についてその実施手順を確認しています。このような洪水対応の習熟度向上に加え、確認された課題については速やかに改善を行うなど、大規模洪水に対する備えの充実を着実に図ってきております。

平常時のリスク管理では、施設の健全性の維持が重要な要素です。日々の巡視・点検を怠りなく確実に実施することを基本として、重大な障害が発生してから修繕する「事後保全」ではなく、ある程度の予兆が見られた段階から対応を始める「予防保全」を実行していくことがポイントとなります。ストックマネジメント、ダム定期検査等の総合的な点検・評価結果をもとに、インフラ長寿命化計画に基づく施設維持管理活動を適切に行ってまいります。

また、新型コロナウイルスも水の安定供給にとって脅威となるリスクです。濃厚接触者の段階でも自宅待機等となり一定期間出勤できなくなりますので、職員が同時に多数の濃厚接触者となった時点で施設の操作に重大な影響を及ぼすこととなります。このため水資源機構では「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」を昨年策定し組織全体で感染症対策に取り組むこととしており、中部管内でも全事務所でマニュアルに沿った適切な感染予防対策を取り、業務の継続を確実に行うこととしております。

今後も管内各事務所と密に連携して着実な業務の遂行及び課題解決を進め、この地域の社会経済をしっかりと支えてまいりたいと考えております。引き続きご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

中部管内水源情報

【中部管内水源情報】

中部管内の各ダムにおける6月25日現在の降雨及び利水貯水率については、下表のとおりとなっています。

木曽川水系の4ダム（牧尾・岩屋・阿木川・味噌川ダム）の6月降雨量は、平年を下回る状況（平年比46%～82%）となっていますが、4ダム合計の貯水率は96%（平年比118%）と、平年を上回る貯水状況となっています。

豊川水系の宇連ダム及び大島ダムの6月降雨量は、平年を下回る状況（平年比57%～87%）となっていますが、豊川用水全体（宇連・大島ダム、各調整池）の貯水率は89%（平年比114%）と平年を上回る貯水状況となっています。

今後も水需要が多い時期が続きます。引き続き、気象、貯水状況に注視していきます。

中部管内各ダムにおける6月の降雨及び利水貯水率（6月25日現在） 単位：（%）

	牧尾ダム	阿木川ダム	味噌川ダム	岩屋ダム	宇連ダム	大島ダム	中里ダム	徳山ダム
降雨の平年比	46	49	56	82	87	57	72	91
利水貯水率 （平年比）	89.0 (131.7)	100 (113.7)	100 (102.9)	100 (115.8)	85.3 (119.2)	94.0 (106.4)	91.7 (115.7)	100 (100)

- 中部支社管内の各ダム貯水状況等は中部支社HP内の「水源情報」でご覧いただけます。
中部支社HP <https://www.water.go.jp/chubu/chubu/index.html>

「水源情報コーナー」

◆リアルタイム情報 <https://www.water.go.jp/mizu/chubu/realtime/index.html>

◆中部管内の水源状況（平日更新） <http://www.water.go.jp/mizu/chubu/report/>

◆ダム貯水状況グラフ、節水情報など

<https://www.water.go.jp/chubu/chubu/sessuijyouhou03-1.html>



ことわざブレイク

【 蛟竜、雲雨を得（こうりょう、うんうをう） 】

能力を発揮する機会がなかった英雄や豪傑が、機会を得て能力を発揮することのたとえ

インタビュー『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』

中部支社メールマガジン水通信では、令和3年より新たなコミュニケーションツールとして、水資源開発施設の建設・管理に携わる「人」に焦点を当て、それぞれのスペシャリストにインタビューを行う『水を支えるスペシャリストに聞いてみた』を掲載しています。

今回は、中部支社で業務を担当している若手職員3名から、コロナ禍における仕事や私生活についてお話を聞きました。



<Profile>

後藤 千穂 *Chiho Goto*

中部支社 総務部利水者サービス課

平成30(2018)年 採用

思川開発建設所(栃木県)に配属

令和2年 中部支社へ異動

現在に至る

岩崎 晶大 *Akihiro Iwasaki*

中部支社 総務部経理管財課

平成31(2019)年 採用

日吉ダム管理所(京都府)に配属

令和3年 中部支社へ異動

現在に至る

高山 大希 *Daiki Takayama*

中部支社 事業部設備課

令和3(2021)年 採用

中部支社に配属、現在に至る

皆さんは水資源機構(以下「機構」という。)に採用されてから1~4年目の若手職員と言われる方々ですが、本日は「若手職員から見たコロナ禍における業務や私生活」についてお話を聞かせてください。

まず、皆さんの学生時代の専攻やこれまで経験されて来られた業務、また現在携わっている業務について教えて下さい。

(後藤) 学生時代は経済学部で学んでおり、新規採用で事務職として栃木県にある思川開発建設所の第二用地課に配属されました。思川開発建設所では、ダムの建設に向けて必要となる土地の情報を調べたり、土地を譲っていただく方々への説明等を行うことで、地元の方々との繋がりの大切さなどを勉強させていただきました。現在は、総務部利水者サービス課で利水者からの機構事業についての予算・決算等、負担金に関する説明や様々な照会への窓口業務を行っています。

(岩崎) 学生時代は法学部で学んでおり、新規採用で事務職として京都府にある日吉ダム管理所に配属となりました。日吉ダム管理所では、縁の下の力持ちとして総務・人事業務に従事するとともに、防災業務にも携わることで人々の生命や財産を守る機構業務の重要性を実感することができました。現在は、総務部経理管財課で資金運用や契約関係業務を行っています。

(高山) 学生時代は材料工学科で学んでいました。この4月に機構に採用となり、現在は、機械職として事業部設備課にて中部管内の機械設備に係る発注や点検の取りまとめ、防災や機器の故障発生時の現場支援業務等の業務を行っています。先日の長良川河口堰における除塩ポンプ設備の不具合発生時には、管内の担当者と協力して設備の復旧対応を経験しました。

皆さんは職種も経歴も異なりますが、後藤さんと岩崎さんは入社してから異動を経験し、これが2箇所目の職場になります。前任地と比較した中部支社の印象を教えてください。

(後藤) 前任地がダムの建設所であったため、事務所としての活気や一体感は前任地の方があった気がします。しかしながら、現在の落ち着いた雰囲気は感染症対策のためだとも考えられるので、これから中部支社の良いところを見つけていければと思います。

(岩崎) 前任地は比較的山奥にある管理所で、作業服を着て仕事をしていました。こうしてスーツを着てオフィス街で仕事をしていることとのギャップが大きく、またこれまでとは違い金融機関等外部の方との業務上の接触が多いため、同じ組織とは思えないほどの新鮮な気持ちで仕事をさせていただいています。

確かに中部支社は建設所と比べると落ち着いた雰囲気があるかと思います。

お二人は初めての異動を経験されましたが、業務の引継ぎからご自身の引越まで色々大変だったのではないかと思います。実際のところどうでしたか。

(後藤) 私は幸い前任地での引継事項が少なく、特に引継ぎに困ることはありませんでした。今は社会人として4年目を迎え、ようやく業務の責任の重さを感じ始めているところです。引越は普段から片付けと掃除が好きなので苦ではなかったですし、栃木県からの道中も楽しみながら名古屋にやって来ました。

(岩崎) 当時は総務・人事業務を担当しており、繁忙期となる年度末の業務が立て込んでいたため、通常業務と両立しながらの引継書の作成や引越に苦労しました。度々ある後任からの問い合わせに対し、引継書をもっと上手く作成できたのではないかと自問自答する日々です。

お二人は全く異なる状況で引継ぎや引越を経て赴任されたのですね。

高山さんは社会人デビューしてこれが初めての職場ですが、思い描いていた社会人像と比べ、理想と現実のギャップはありますか。

(高山) 父親がスーツを着て会社勤めをしていたので、よくある一般的な社会人像と現在自分がスーツを着て仕事をしている状況にギャップはありませんでした。また、学生時代は作業着で通学したりもしていたので、現場で作業服を着ることについても特に違和感ありませんでした。業務については多忙な中でも1から教えていただいていることもあり、予想以上に優しい職場だと実感しています。

現在はコロナ禍で出勤も制限され、在宅勤務・リモートワークを余儀なくされている状況ですが、どのように業務を工夫して行っていますか。

また、在宅勤務やリモートワークで困っていることがあれば教えてください。

(後藤) 上司が常に側にいないことから、物事の優先順位を決めてやらなければならないことを意識しています。1年前に感染症対策を始めた頃に比べ、リモートワークの環境が整備されて働きやすくなってきました。

(岩崎) 入札や支払手続き等在宅では難しい業務が多く、いかにリモートワークとの折合いを付けるかが現在の課題です。システムや制度上の問題もあるため、今は与えられた環境で自分の業務に全集中で取り組んでいます。

(高山) 入社してまだ2ヶ月のため上司の指示の下業務を行っており、まだリモートワークをできる状況ではありません。これから経験を積んで早く業務を覚え、リモートワークにも挑戦してみたいです。

このような状況下ですが、皆さん日々工夫しながら業務を進められているんですね。慣れない環境でストレス解消の方法があれば教えてください。

(後藤) ストレス解消法は、自分の好きなことに没頭することです。好きな音楽を聴いたり、映画やドラマを見たり、たまに運動してみたりという感じです。特に珍しい趣味はありませんが、些細なことでストレスが解消されるタイプなので、日頃からストレスを溜めずに過ごしています。

(岩崎) 旅行が趣味なのですが、現在はコロナ禍で旅行できないので、宿舎のベランダで家庭菜園を始めました。紫蘇、生姜、茗荷など、つつい晩酌に使えるような作物ばかり育てています笑。

(高山) 戦艦などの模型作りが趣味なのですが、名古屋に来てからはできていないので、落ち着いたら休日にもじっくり組み立てたいと思っています。また、意外と言われますが、サバイバルゲームが好きで、ゲーム用のエアガンを3丁所有しています。こちらではまだゲームに参加したことがないので、そのうちフィールドに出てみたいです。

確かに高山さんのサバイバルゲームは意外な趣味ですね。

岩崎さんは家庭菜園で晩酌用の作物を育てているとのことでしたが、皆さんは普段からお酒を飲まれているのですか。

(後藤) お酒は好きでよく飲んでいますが、前任地での上司の影響もあり、日本酒も飲むようになりました。旅行や出張・転勤先で地域のお酒を楽しむのも良いですね。

(岩崎) 同じくお酒は好きで、焼酎以外なら何でも飲みます。毎晩のように飲んでいるので、つつい飲み過ぎないよう気をつけています。

(高山) まだお酒を飲めるようになって間もないこともあり、あまり量は飲めないのですが、ビールやチューハイなどを週に1本くらい飲む程度ですが、これから少しずつ慣れていきたいです。

コロナ禍以前は職場での懇親会もありましたが、いつか皆さんと一緒に懇親会を開催できる日を職員一同楽しみにしています。

話変わって、後藤さんと岩崎さんは三重県と愛知県出身とのことですが、久しぶりに地元に戻ってきた感想を教えてください。

(後藤) 実家が近くなったので、時々実家に帰っています。栃木にいた時には地域の観光名所や美味しいもの巡りなどの休日の楽しみもありましたが、実家が近いと何かと安心できますね。

(岩崎) 私も実家が近くなったので良く帰っています。普段職場の人と接する機会が多いので、地元の友達と気軽に会えるのは良い気分転換になりますね。コロナウイルスを気にせず会える日々が早く帰ってきて欲しいです。

高山さんは福岡県出身とのことで、地元から離れて生活することになりましたが、初めての一人暮らしはいかがですか。

(高山) 初めての一人暮らしということもあり、毎日が苦労の連続です。特に自炊が一番大変だと感じています。毎日の献立を考えたり、仕事終わりに買い物に行き、限られた台所のスペースを使って料理することの大変さが身に滲みます。名古屋名物あんかけパスタなど、たまに食べる外での食事が美味しく感じます。

最後になりますが、今後、どのような職員になりたいと考えていますか。また、今回のコロナ禍における経験はこれまで誰も経験したことのないものであると思いますが、この経験をどのように役立てたいと考えられていますか。

(後藤) 社会人として4年目を迎え、業務で求められることも増えてきました。これからも利水者の窓口として真摯に取り組んで参りますので、水通信をご覧いただいている利水者の皆様におかれましては、今後ともよろしく願い致します。機構の事務職員は色々な勤務地を通して様々な職種に就けますので、今後とも臨機応変に対応できるような職員になりたいです。

(岩崎) 「困ったときに頼られる職員」になりたいです。これまで『この人に聞けば解決できる!』という頼れる先輩がたくさんいらっしゃり、色々教えていただくことで日々成長してきました。今後は自分がその立場になるため、様々な業務を通じて知識・経験を増やしていけたらと思っています。

(高山) 現在仕事を教えていただいている諸先輩方は知識・経験ともに豊富で、他の職員からも頼りにされているところを間近で見ているので、研鑽を積んで他の職員から頼りにされるようになりたいです。また、社会経験が少ない中でこうしたコロナ禍における業務を余儀なくされていますが、この経験を活かして様々な視点から業務に取り組んでいけたらと思います。

お忙しいところどうもありがとうございました。

このような大変な状況下ではありますが、皆さんにはこれから多くの経験を積み、周囲から頼られる職員となるよう成長を期待しています。

インタビューの様子を写真を通じて少しだけご紹介させていただきます。



当日、高山さんが防災対応のため急遽現場に出動することとなってしまう、総務部所属の2名で感染対策をしながらインタビューを行いました。これまでプライベートな話題も含めゆっくり話す機会が少なかったため、和気藹々とした雰囲気で行いました。



高山さんについては、現場対応が一段落してから個別にインタビューを行いました。

入社以降、在宅勤務の影響もありなかなか他の職員と話す機会がなかったため、趣味の話を含め意外な一面を知ることができました。

水資源機構中部支社では、水の安定供給を支える「人」に焦点を当てたインタビューコーナーを今後も特集として掲載していきます。インタビューに応じていただける方を募集しておりますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

《新着情報》

中部支社

○ 洪水対応演習を実施しました

中部支社では、4月19日（月）、20日（火）の二日間、梅雨入り前に、管内のダムの洪水対応演習を実施しました。

演習は、ダムの防災操作等に伴う危害防止措置（関係機関への通知、放流警報等による周知等）及びダムの防災操作を確実に実施することを目的に洪水対応演習を行い、洪水期の防災対応に備えました。



■ 中部支社洪水対応演習の様子

豊川用水総合事業部

○ 東郷西小学校に出前授業に行ってきました。

5月18日（火）、新城市立東郷西小学校の4年生を対象に出前事業を実施しました。コロナ禍という状況もあり、手指の消毒や検温はもちろん、会場を密にならないような配置とし、万全の対策で授業に臨みました。

当日は、豊川用水の成り立ちから水の使い方などについて、クイズも活用しながらわかりやすく説明しました。クイズは小学生たちから好評で、楽しく豊川用水について学んでいただけたようです。

また、パックテストを使って、牟呂松原用水取水口の水と水道水で、残留塩素の比較実験を行っていただきました。結果が出



■ 水比較実験で質問する児童

るまで機構職員はドキドキでしたが、残留塩素を含む水道水の試薬の色が変化すると、小学生の歓声が聞こえ、機構職員はほっと胸をなでおろす思いでした。

最後に小学生たちから、「クイズで豊川用水を勉強できて、わかりやすかった」「パケットをして、水道水は安全に飲めるように消毒されていることがわかった」といった感想をいただきました。

今回の出前授業を通じて、豊川用水の役割や水の使われ方や水の大切さを学んでいただき、小学生にとって有意義な授業になったのではないかと思います。

○ リスク管理勉強会を行いました。

リスク管理は機構全体での取り組みであり、豊川用水でもリスクを抽出しリスクを軽減するための手法が整理され、本社の説明会にも参加し習熟を図っているところです。

豊橋支所ではリスク管理手法を学習するだけでなく、よりリスクを認識するための取り組みとして、5月21日（金）に勉強会を実施しました。



■リスク管理勉強会の様子

事務・技術のそれぞれの分野で抽出されているリスクに関連してより詳細に施設操作ミス、第三者事故、水質事故、情報漏洩、労働法違反などの事例や想定を学習しました。

今回の取り組みは、通常の業務を行う中で常にリスクがあり、小さな誤りや間違った対応が大きなリスクに関連してくることを職員の一人ひとりが意識し、リスクに関してイメージし易い取り組みであったと感じました。

○ 大野導水併設水路工事のTBM掘進開始から1年がたちました

4月1日（木）は、TBMが掘進開始してからちょうど1周年となりました。これまでの掘進距離は、全長の半分以上を超え、約3500m地点に差し掛かろうとしています。

大野導水併設水路工事は、豊川用水二期事業の水路トンネル工事の中で最も上流部に位置しており、トンネルボーリングマシン（TBM）と呼ばれる、前面に直径約4.5mの掘削面を有する巨大な掘削機（写真参照）により、全長約6000mの区間を掘進しています。立坑と呼ばれる巨大な縦穴（直径15m、深さ30m）を降り、機関車に乗り込んでトンネル先端部まで移動する時は、少しワクワクします。本工事区間は、上空のヘリコプターから地中の様子を把握する技術など、最先端の調査手法を用いることにより、これから掘進する区間の地質状況を事前に把握し、突発的な湧水や崩落に備えています。今後も安全に施工できるように努めて参ります。



■トンネルボーリングマシン（TBM）

木曾川水系連絡導水路建設所

○ 「長良川を美しくしよう運動」に参加しました

4月18日（日）に岐阜新聞社・岐阜放送主催で、1973年から実施している「長良川を美しくしよう運動」の清掃活動に参加しました。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、春と秋の2回とも中止となり、令和元年10月に実施して、1年半ぶりの開催となりました。

当日は、午前7時から午前8時までの作業で、鶺鴒大橋から忠節橋までの間の河川敷約4kmの区間を81団体約3,300人の参加により行われました。

当建設所からは4名が参加し、鶺鴒大橋と長良橋の右岸側の中間あたりを担当して、参加者の皆さんとともにペットボトルや空き缶等の収集を行いました。



■清掃作業の様子



■収集したゴミと参加者4名

愛知用水総合管理所

○ 愛知用水三好池耐震対策技術検討委員会を開催しました

4月14日（水）、15日（木）の2日間にかけて、「愛知用水三好池耐震対策技術検討委員会（第4回）」を開催しました。本委員会は、愛知用水三好支線水路緊急対策事業における三好池堤体耐震補強工事の調査、設計及び施工について検討を行うため、外部有識者を委員に招いて審議していただくものであり、愛知用水総合管理所では調査、設計、現地施工の視察を含め3回の委員会を開催し、堤体の耐震補強工事を進めてきました。

今回、池の水位を一部下げて施工してきた堤体の耐震補強工事が完了したことから、三好池の湛水を開始するにあたって第4回目となる本委員会を開催しました。委員会当日は、補強工事完了後の堤体や観測設備等を現地で視察するとともに、湛水状況確認及び堤体観測の計画を審議のうえ承認していただきました。これを受けて、令和3年5月から三好池の湛水を開始しました。

愛知用水総合管理所では、三好池の水位を回復させ、早期の事業完了と効果発現を目指して引き続き取り組んでまいります。



■現地視察の状況（第4回委員会）



■三好池の湛水状況（6月6日時点）

木曾川用水総合管理所

○ 交通安全優良事業所表彰をうけました

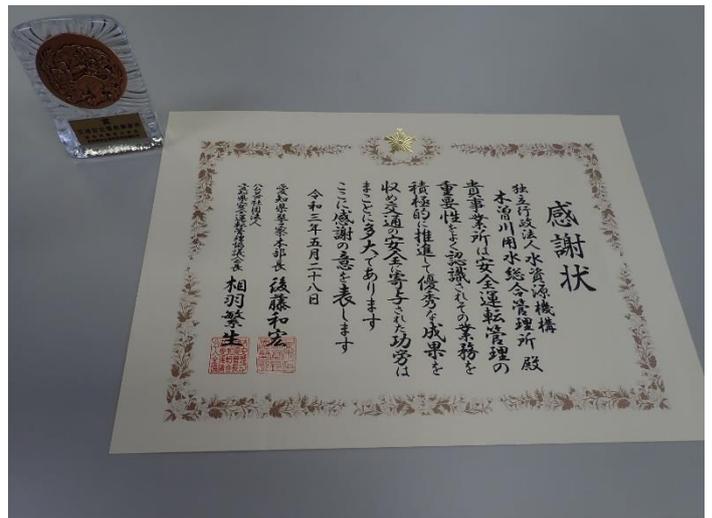
6月9日（水）に、愛知県警察本部長・公益社団法人 愛知県安全運転管理協議会長より、交通安全優良事業所として表彰を受けました。

この表彰は、交通事故防止について企業の果たす役割の重要性をよく認識し、安全運転管理及び運転者に対する交通安全教育等を積極的に推進、交通事故防止に努めたその業績が顕著な事業所が受けるものです。

日頃より心がけているところではありますが、今回の表彰により、安全運転管理や交通事故防止に対する意識をより一層高く持って業務に臨むきっかけとなりました。



■表彰式の様子



■感謝状

岩屋ダム管理所

○ 「アユ迷入防止対策」を行いました

岩屋ダムでは昨年度に引き続き、4月15日（木）に馬瀬川下流漁協と協働で「アユ迷入防止対策」を行いました。

この対策は、馬瀬川のアユが馬瀬川第二ダム直下へ迷い込まないように、水鳥の羽に似せた「オドシ」と呼ばれる仕掛けを水面に配置するものです。

当日は、アユの習性を熟知した馬瀬川下流漁協の方々としニアスタッフを含む岩屋ダム管理所職員とともに、馬瀬川の右支川である和良川との合流点付近に馬瀬川を横断する形で仕掛けを取り付けました。

6月5日（土）には馬瀬川下流漁協管内においてアユ釣りが解禁され、多くの釣りファンで賑わっています。



■アユ迷入防止対策



■設置作業状況



ことわざブレイク

【 夜上がり天気雨近し 】

夜のうちに雨が上がり晴れた天気は長く続かないということ

阿木川ダム管理所

○ 防災操作連絡会を開催しました

阿木川ダムでは、5月20日（木）に、阿木川ダム防災操作連絡会を開催しました。

防災操作連絡会は、阿木川ダムの防災操作において、関係機関との連絡を密にし、その円滑な実施に資することを目的として、毎年洪水期前に実施しているものです。昨年度は新型コロナウイルスに係る緊急事態宣言が発出されていたことから、書面持ち回りによる開催となりましたが、今年度は感染症対策を実施しながら、対面で開催しました。

令和3年は、平年より21日早く梅雨入りし、阿木川ダムでは既に洪水調節を行っています。引き続き関係機関との連絡を密にしながら的確な防災操作を実施する所存です。



■ 感染症対策を行った連絡会の様子

○ 特定外来植物のオオキンケイギクの駆除を行いました

5月25日（火）、阿木川ダム湖周辺の環境保全のため、オオキンケイギクの駆除を行いました。

オオキンケイギクは、特定外来生物に指定されており、繁殖力が非常に強く、在来の植物の生育場所を奪うなど、生態系に重大な影響を及ぼすおそれがあることから、当管理所では駆除を毎年実施しています。その効果もあってか、毎年駆除数が減っているように見受けられます。

ダム管理所では、引き続きダム湖周辺の環境保全の取組に努めていきます。



■ オオキンケイギクの駆除作業の様子

○ カワウの個体数抑制の取組を行っています

阿木川ダム湖に設置されている表層曝気設備（噴水）のケーブルに、令和元年頃から、カワウが営巣するようになりました。

阿木川ダム湖内には、陸封アユをはじめ様々な魚類が生息しており、カワウが増えると生息環境が変化するおそれがあるため、岐阜県とカワウの個体数抑制について協議を行ってきました。

その結果、「①卵の採取を行うこと」、「②卵の採取にあたり、事前に許可申請を行うこと」とし令和元年度より卵の採取を行っています。

今年も3月下旬に採取を開始し、5月末までで278個の卵を採取しました。

採取しても翌週には新しい卵が生まれており、カワウと人間との根比べとなりますが、引き続きカワウの個体数抑制に努めていきます。



■表層曝気設備のケーブル上のカワウ



■カワウの卵

○ 施設見学会を実施しました

6月7日（月）に地元の恵那市立大井小学校の4年生児童を迎え、施設見学会を実施しました。実施にあたっては新型コロナウイルス感染症対策として、体温の測定、入場前の手指アルコール消毒の実施、密をさけるため二班体制でのプログラム進行を行いました。施設見学会では防災資料館説明ホールでの概要説明やダム堤体内での水力発電機室と監査廊の見学を通して水の大切さ、阿木川ダムの役割について学んでいただきました。児童らからは非常に多くの質問をいただき、皆さんの学習意欲の高さが窺えました。

今後も新型コロナウイルス感染症対策に十分留意しながら広報活動をすすめて参ります。



■間隔を開けて概要説明を受ける児童



■水力発電機室で説明を受ける児童

徳山ダム管理所

○ 植樹イベントに備え下草刈り作業を実施しました

NPO法人揖斐自然環境レンジャー、生命の水と森の活動センター及び揖斐川中部漁業協同組合が主催で、徳山ダムを建設する際の材料としてコア材（粘土のような土）を採取した山（通称：コア山）にクリ、コナラ、ブナ、ミズナラ、オニグルミなどの実のなる木を植える活動『徳山ダム上流に実のなる木を植えよう大作戦』を行っています。

今年度で21回目となります。この植樹活動は10月に開催予定となっていますが、その事前準備ということで下草刈り等の作業を6月5日（土）に実施しました。毎年行っている下草刈りのほか今回初めて積雪や経年により劣化した食害防止ネットの回収を行いました。劣化したネットは現地に山積みになっていたことから雑草も絡んで生えており回収作業に苦戦しました。

食害防止ネットは設置に支柱3本が必要ですが、近年はネットに代わり軽量の筒状のものになっており、支柱は1本で済むため設置も撤去も楽になっています。



■ 船でしか行けない「コア山」



■ 古い食害防止ネットを回収して丸め、軽トラに積み込みました



■筒状の新しい食害防止具



○ 常用洪水吐きゲート設備の機側操作訓練を実施しました

ダムには水を放流するためのゲート設備があります。通常は管理所の操作室から遠隔操作で開閉を行いますが、設備のあるゲート室で操作を行う機側操作訓練を6月7日（月）に行いました。

何らかの原因で遠方操作ができない場合にゲート室で直接操作を行うための手順の確認を行い、併せて放流前後に行う点検内容の確認を行いました。ダム湖側の修理用ゲートを全閉し実際に常用洪水吐きゲートの開閉を行いました。引き続き万全なダム管理に努めて参ります。



■訓練の様子

長良川河口堰管理所

○ 天然遡上アユの親魚育成試験に協力

長良川河口堰管理所では、岐阜県が行っている「天然遡上アユの親魚育成試験」に協力しています。

海と川を行き来して一生を送るアユは、秋に川で卵からふ化した仔魚は、冬の間、餌が豊富で温かい浅い海で過ごした後、春になり川の水温が上がってくると川を上って行きます。これまでの岐阜県水産研究所の研究から、早い時期に川を上ってくる稚アユの一部を保護・飼育・放流することにより、その年の漁獲だけでなく、翌年以降のアユが増える可能性が示されています。

今年度は、4月6日（火）～8日（木）、21日（水）、22日（木）に、長良川河口堰に設置された魚道の一つ、右岸呼び水式魚道において採捕作業が行われ、合計で約2万尾の稚アユが採捕されました。

この試験を通じて長良川に生息するアユが増えていくことを期待します。



■ 稚アユの採捕作業の様子
(採捕作業を手伝う機構職員)



■ 採捕した稚アユ

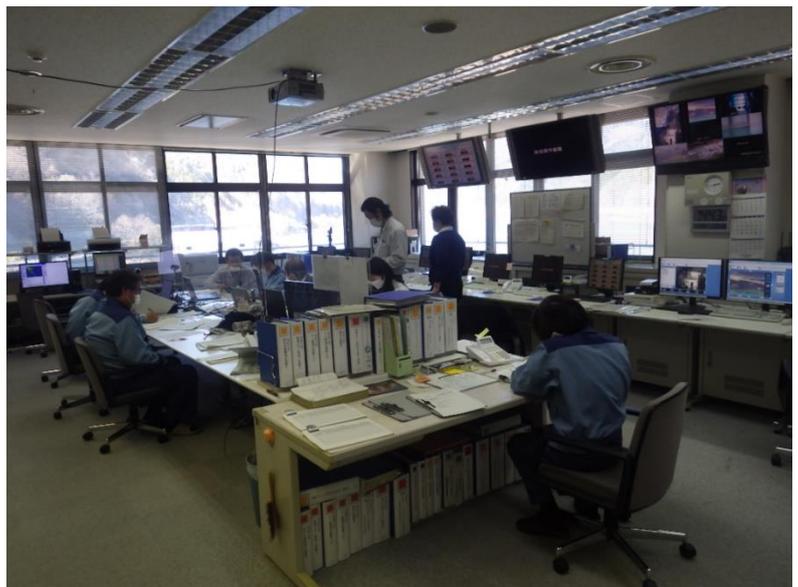
味噌川ダム管理所

○ 洪水対応演習を行いました

味噌川ダム管理所では、日々の安全管理はもちろん、大雨や台風のいざという時に味噌川ダムと各関係機関との連絡が円滑に進むように、点検や連絡網の確認、演習を毎年実施しています。

味噌川ダムの目的の一つに洪水調節があります。洪水（大雨）の時には、ダムに流れ込む水の一部をダムにため込み、ダムから下流へ流す水を少なくしますが、ダムに流れ込む水が増えると、ダムから流す水も増やすことがあります。

4月19日（月）、20日（火）、中部支社を中心とした管内ダムの演習では、今後の梅雨や台風シーズンに備え、豪雨によりダム湖の水位が上昇しているとの想定で職員らで手分けをして、流域町村や県の出



■ 操作室における演習の様子

先機関、警察、消防などとの連絡や河川巡視を行い、緊急時に必要な行動を確認しました。木曾川流域にある30の警報局も味噌川ダムから順番に木曾町までサイレンを鳴らし、正常に作動するか確認しました。

職員一同、本番さながらの緊張感をもって演習を行うことができました。

○ 桜の植樹に参加しました



■ 植樹作業の様子

5月2日(日)、味噌川ダム管理所がある木祖村の大原地区で、桜の植樹活動に参加しました。植樹作業は今年度の木祖村の緑化推進事業として、大原地区の村有地内でオオヤマザクラの植樹を行うものです。植樹したのは、大原地区の御嶽はくさい畑の南側の斜面で、地元住民が一带を桜の里にしようと長年植樹を続けてきたところです。小雨でしめった土に足をとられないように気をつけながら味噌川ダム職員も一生懸命作業しました。

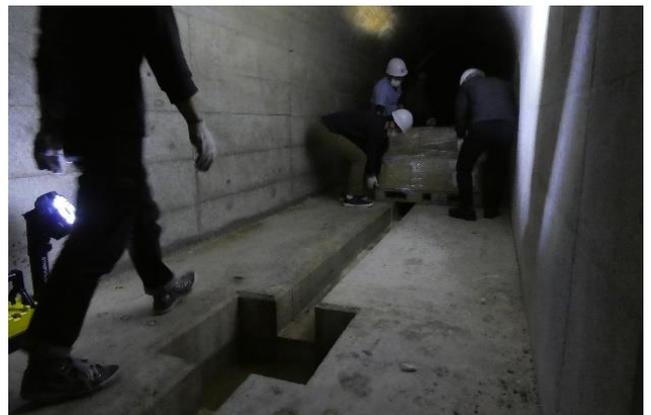
○ ダム貯蔵酒の蔵入れがありました

5月31日(月)、今年も味噌川ダムの堤体内に、木祖村の「湯川酒造店」の日本酒を貯蔵する取り組みが行われました。今年で5回目となります。

この取り組みは、湯川社長が「ダムの内部は温度が13～14度と年中一定に保たれ、日本酒の熟成に適している。」と提案。木祖村が賛同し、水源地域ビジョンの特産品開発と地域活性化に当てはまると、味噌川ダムが協力する形で始まったものです。

ダム下流広場の監査廊入口から470m程奥にトラックで搬入。体感ではひんやりとしたトンネル内ですが、湯川酒造店の蔵や冷蔵庫(通常2～5度)と比べると温度の高いダム内部は熟成の速度が速く、秋には粗さが取れ、まろやかな味の日本酒になるそうです。

木曾川源流のおいしい水と、木曾産の酒米・ひとごちが原料の純米吟醸です。蔵出しをお楽しみに。



■ ダム内部に運び込まれる日本酒

三重用水管理所

○ 三重用水土地改良区理事長が視察されました

6月1日（火）に、三重用水土地改良区森智広理事長（四日市市長）が三重用水管理所を視察されました。

今回の視察では、三重用水全体を一元的に遠隔監視・制御している操作室で、事業概要及び菰野調整池の概要のほか、担当職員から三重用水の水流れを説明し、その後、三滝取水工、牧田川取水工、中里ダム等の施設を視察されました。三重用水が供給している農業用水をはじめ、水道用水、工業用水が、地域の産業や暮らしを支えていることなど理解を深めて頂きました。

三重用水は平成5年から管理を開始しましたが、暫定通水は昭和59年から実施しており、施設の老朽化が進んでいます。そのため、施設の機能診断を行い、施設更新や耐震化を進めています。今回の視察では、機能保全やリスクの軽減などの取り組みを共有いただく貴重な機会となりました。

今後も安全で安定して水を供給できるように努めてまいります。



■操作室で説明を受ける森理事長（右から2人目）



■中里ダム視察の様子

○ 赤川のホタル観察をしています

三重用水管理所では、赤川において環境保全など地域活動を行っている「マこもの里自然に親しむ会」と協働でホタルの飛翔を観察しています。

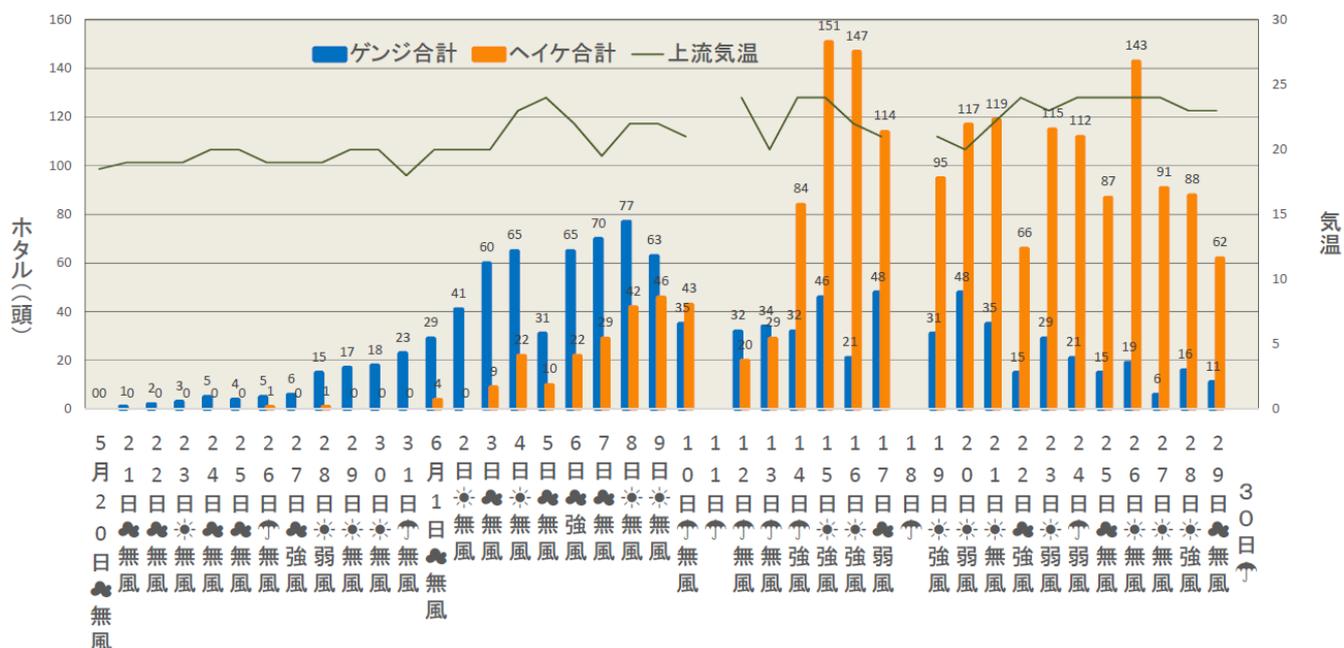
当管理所は、平成17年から河川清掃活動のほかに、菰野調整池の直下流河川の環境保全の指標とするべく毎年実施しています。

ホタルの飛翔は、6月1日～10日がゲンジホタル飛翔のピークとなっています。昨年のホタルの飛翔のグラフをご参照ください。

当管理所がある三重県菰野町では、赤川だけでなく、他の地域でもホタル保全をしていますが、ホタルの飛翔が減少傾向のようです。

来年も多くの飛翔が見られるように、「マこもの里自然に親しむ会」と協働で環境保全に取り組んでいきます。

2020年 赤川ホタルの数と気温



○ 菰野調整池直下流赤川の清掃活動を実施

5月18日（火）、三重用水管理所では、ホタルの飛翔シーズンに備えて、菰野調整池（きらら湖）直下流の赤川沿いの清掃・除草作業を行いました。

この取り組みは、赤川において環境保全などの地域活動を行っている「マこもの里自然に親しむ会」と協働で例年5月、7月、9月の年3回実施しているものです。

三重用水管理所では、ホタルをはじめとする水辺の生物の生息の場を守るため、引き続き環境保全活動に取り組んでいきます。



■ 「マこもの里自然に親しむ会」との清掃作業

○ 打上調整池（水嶺湖）で防災ヘリによる消火訓練が行われました

三重用水管理所が管理している打上調整池（水嶺湖）では、岐阜県防災航空隊が山林火災をいち早く鎮火させるため、防災ヘリによる消火訓練が定期的に行われています。

今回、5月20日（木）に行われた防災ヘリの消火訓練の様子をご紹介します。



■水嶺湖を利用して防災ヘリによる給水、散水などの消火訓練

イベントカレンダー

中部管内関連のイベントカレンダー 【令和3年7月～8月】

新型コロナウイルス感染拡大防止により、各イベントについては自粛しております。



ことわざブレイク

【 雨晴れて笠を忘れる 】

苦しみが過ぎれば、すぐに受けた恩を忘れてしまうことのとえ。
雨がやむと、役に立った笠のことを忘れるという意から。

編集後記

【担当課：中部支社総務部 経理管財課】

昨年発生した新型コロナウイルス感染症は、未だに猛威を振るい、不安な状況が続いており、愛知県では、3度目の緊急事態宣言が発せられ、宣言の期限以降の6月21日（月）からは、まん延防止等重点措置が継続されています。

今後は、ワクチン接種が実施され、感染抑制が図られることと思いますが、これまでと同様に感染拡大防止対策の取り組みを徹底して、ひとりひとりが感染しないよう気をつけたいものです。

そのような中、東海地方では、5月16日に梅雨入りが発表されました。今年の梅雨入りは例年より約20日間も早く、過去2番目の早さだとのこと。ここ数年は、集中的に大量の降雨が発生する状況が続いていることから細心の注意を払い、対応しなければならないものと考えています。特に昨年度より取り組みを開始した事前放流を含め、各施設を効率的かつ的確な運用により、洪水被害の軽減に努めて参りたいと思います。



今月の水通信はいかがでしたでしょうか。

「水通信」に対して、ご要望、ご意見等がございましたら、下記アドレスまでご連絡ください。

mailto:chubu_water@water.go.jp

*** 『第181号は、8月下旬に発行する予定です。』 ***
バックナンバーをご覧になりたい方はこちら

<https://www.water.go.jp/chubu/chubu/mizutsuushin/mizutsuushin.html>



☆中部管内事業所のホームページアドレスは、以下のとおりです

中部支社：	https://www.water.go.jp/chubu/chubu/
豊川用水総合事業部：	https://www.water.go.jp/chubu/toyokawa/
木曽川水系連絡導水路建設所：	https://www.water.go.jp/chubu/kisodo/
愛知用水総合管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/aityosui/
木曽川用水総合管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/kisogawa/
岩屋ダム管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/iwaya/
阿木川ダム管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/agigawa/
徳山ダム管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/tokuyama/
長良川河口堰管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/nagara/
味噌川ダム管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/misogawa/
三重用水管理所：	https://www.water.go.jp/chubu/mieyosui/

発行者：水資源機構中部支社